

ジュニアジオガイド講座（全4回）

[主催]	国立阿蘇青少年交流の家
[共催]	環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所 阿蘇火山博物館 阿蘇ジオパーク推進協議会
[後援]	熊本県教育委員会 阿蘇市教育委員会
[期日]	第1回 令和3年10月2日(土)～10月3日(日)【1泊2日】 第2回 令和3年10月30日(土)～10月31日(日)【1泊2日】 第3回 令和3年11月13日(土)～11月14日(日)【1泊2日】 第4回 令和3年11月20日(土)～11月21日(日)【1泊2日】
[活動場所]	国立阿蘇青少年交流の家及び阿蘇ジオパーク
[参加者]	小学5年～6年生 26名
[講師]	第1回 池辺伸一郎氏 (阿蘇火山博物館 館長) 第2回 宮本利邦氏 (阿蘇市教育委員会 学芸員) 豊村克則氏 (阿蘇火山博物館 学芸員) 山本捺由他氏 (環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所 係員) 第3回 児玉史郎氏 (阿蘇ジオパークガイド協会 理事) 第4回 児玉夏子氏 (阿蘇市経済部観光課 主事)
[阿蘇ジオパーク協会ジオガイド]	11名 (全4回各班担当 5名/第1回実験担当 6名)
[協力団体]	第1回 垂玉温泉瀧日和・温泉センターウィナス 第2回 阿蘇神社・国造神社・阿蘇淡水魚センター・阿蘇ホテル二番館・ 株式会社日本リモナイト阿蘇鉱業所 第3回 京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設火山研究センター 第4回 阿蘇大観峰茶店
[担当職員]	8名 [法人ボランティア] 4名

1 趣旨

阿蘇ジオパークを地域教材として活用することで、郷土と自然を愛する態度の育成を図るとともに、問題解決学習を通して科学的思考力と課題解決能力、自ら学ぶ意欲を育成する。さらに、阿蘇ジオパークの情報を発信することで幅広い知識と表現力を育成する。また、ジオパークに関する仕事をしている人々の思いや願いを聞く場を設定することで、自らの将来について考える機会を作る。

2 目標

- (1) 全4回参加した児童のすべてがジュニアジオガイドとしてのガイド体験を実施することができる。
- (2) 事後のアンケートで、8割以上が「阿蘇ジオパークや阿蘇のよさ、すばらしさに気づくことができた」「自然のよさ、すばらしさに気付くことができた」と回答する。
- (3) 事後のアンケートで、8割以上が「実際に探検したり、実験や観察をしたりすることが好きになった」「仲間と協力することができた」と回答する。

3 事業展開

研修プログラム

- 【第1回】 10月2日(土)～3日(日)『阿蘇は、生きている』を体感しよう！
見学地 火山博物館/中岳火口/南阿蘇湧泉群/垂玉温泉/立野峡谷/新阿蘇大橋
講話 「阿蘇ジオパークについて」
- 【第2回】 10月30日(土)～31日(日)「火山の恵みと人々の営みとの関係を探ろう！」
見学地 阿蘇神社/水基めぐり/国造神社/上御倉・下御倉古墳/中通古墳群/内牧温泉/
大観峰/阿蘇黄土
講話 「火山に関する仕事をしている方の講話」「国立公園・草原について」
- 【第3回】 11月13日(土)～14日(日)「火山やカルデラの雄大さを体感しよう！」
見学地 大観峰/京都大学火山研究センター
講話 「ガイドのコツ講座」
- 【第4回】 11月20日(土)～21日(日)「阿蘇ジオパークの魅力を伝えよう！」
見学地 大観峰(ガイド体験)/二重の峠
講話 「ジオに関する仕事をしている方の講話」

【第1回】

中岳火口見学の様子

**【第2回】**

上御倉古墳見学の様子

**【第3回】**

大観峰見学の様子

**【第4回】**

ガイド練習の様子



噴火実験の様子



講話の様子



原稿作成の様子



ガイド体験の様子



垂玉温泉見学の様子



阿蘇黄土見学の様子



火山センター見学の様子



二重の峠見学の様子

**4 成果と課題****(1) 成果**

○2の目標に上げていた3つの項目すべてで目標値を100%達成できた。

(1) 大観峰ガイド体験 全4回参加 25名中25名実施 (学校行事で不参加 1名)

(2)・(3)はそれぞれの質問で「とてもそう思う」「そう思う」の回答数。

○児童の感想からは「ガイド体験という貴重な経験ができた」「いろんなところに行っているな発見をしたら面白かった」「阿蘇についてたくさん学べた」など事業全体への高い満足度がうかがえた。また、「さらに自分の地域のすごいところや不思議なところを探してみたい」「色々なことにチャレンジして、もっと自信が持てるように頑張る」「これから学校でもたくさん発表したい」など、今回の経験を今後にかそうとする意欲が高まっている様子もうかがえた。

○大観峰ガイド体験のテーマ(ゴール)を「阿蘇ジオパークの魅力伝えよう」と設定したことで、最終回までの各ジオサイト見学の意味づけがより明確になった。

○第2回で昨年度ジュニアジオガイド講座を受講した5名のガイドを聞く場を設けた。受講後の活動の場を提供できたとともに、本年度受講者へのガイドへのイメージづくり、意欲付けにもなり、大変良かった。プロのジオガイドの方々からも好評だった。

○コロナや中岳噴火による見学地変更と、当初の計画通り進めることはできなかったが、新たな見学地の開拓につながった。(垂玉温泉、京都大学火山研究センター)

○全4回すべてに同じ学生スタッフが関わってくれたことで、参加児童との信頼関係が強まっただけでなく、学生の児童へのかかわり方にも最初は遠慮がちな対応だったが、徐々に自信をもって対応できるようになるなど変化や成長が見られた。

(2) 課題

●「全4回参加できること」を条件としていたが、実際にはコロナの関係で学校行事が流動的になり、途中参加や早退が相次いだ。今後も募集時点で行事が定まっていな学校が多いのであれば、条件を見直し、参加を希望する児童がすべて申込できるようにした方がよい。

●ガイド体験を終え、ガイドすることや阿蘇やジオパークへの興味関心が高まっている。今後の活動の場をどのように保障するか、ジオガイド協会とも連携を取っていきたい。